



ハンドハイジーン研究会  
Good Hand Hygiene

NEWS LETTER vol.01

# Goodhandhygiene News Letter 発刊にあたって

ハンドハイジーン研究会 運営委員長  
順天堂大学大学院 医学研究科感染制御  
科学 教授  
堀 賢



みなさん、ハンドハイジーン研究会へようこそ！  
当研究会は、2016年に研究会として発足しました。前身は2014年に“ハンドハイジーンチャレンジ！”という現場の手指衛生改善支援活動でした。活動内容としては、ICT向け教育講演、参加登録施設別に年4回の活動報告（中間報告）とコンサルテーション、年に1回の活動報告（最終報告）と表彰をしてきました。前身の時代からこれまでに30超の施設とのべ1,000人以上の参加者を集めて集会形式で活動してきました。

しかしながら、2020年春にCOVID-19が我が国に入ってきてから、パンデミックが世界全体を覆うようになると、手指衛生製剤も世界中で供給が不安定になり、さらに医療施設でもICTの感染防止活動はコロナ対策が中心に変化し、手指衛生改善活動に回せる余力が全くない状態になってしまいました。ゆえに、本会も一時休止を余儀なくされました。

2021年も半ばを過ぎ、コロナ対策も日常化したところで、2022年からはポストコロナ社会に向けて手指衛生の重要性が再び高まってくることが予測されました。またコロナ対策が十分日常化した時期でもあり、当会の活動を再開することになりました。ただし、これ

まで集会形式が基本でしたが、会員が自施設を離れることが困難であること、リモート形式のインフラが社会に広く浸透したことなどから、開催形式をリモート形式に変更し、参加受付も通年で可能にしました。さらにこれまでの活動を総括し、エビデンスに残すための試みとして、藤田烈先生が筆頭著者になり、英国医療関連感染症学会（HIS: Healthcare Infection Society）の機関紙であるInfection Prevention Practiceに投稿したところ、見事アクセプトされ掲載が決定しました（今号にはその日本語でのダイジェストが記載されています）。

さらに、これまでご活用いただいた手指衛生の評価アプリF-momentsも、WHOの手指衛生ガイドラインに準拠し、連続した処置のそれぞれに手指衛生の評価を入力できるように変更し、さらに手袋の使用についても記録できるモードを新たに搭載しました。これにより、学会や研究会で発表するときにもそのままデータ活用ができるようになります。

実践を通じて開発した様々な改善のアプローチや評価ツールをこれからもどんどん公開していきます。是非皆さんもハンドハイジーン研究会に参加して、あなたの施設の手指衛生を改善していきましょう！

編集・発行：  
ハンドハイジーン研究会  
事務局 株式会社コンパス内  
〒113-0033  
東京都文京区本郷3-35-4 不二光学ビル3階 TEL  
03-5840-6131 FAX 03-5840-6130  
E-mail: info@goodhandhygiene.jp  
https://www.goodhandhygiene.jp/



ハンドハイジーン研究会  
Good Hand Hygiene

# ハンドハイジーン研究会参加施設の活動結果



国際医療福祉大学  
藤田 烈

ハンドハイジーン研究会参加施設の活動結果をまとめ、直接観察法の導入効果を解析した論文が、Healthcare Infection Society（英国感染症学会）の公式学会誌であるInfection Prevention in Practiceに掲載されました。皆様の日頃の努力の成果を貴重なエビデンスとして報告することができました。今回は、本研究会のニュースレター第一号の記事として、この論文のサマリーを紹介させていただきます。本研究にご参加いただいた全ての研究会メンバー、医療機関の皆様へ、心から感謝いたします。

## <論文タイトル>

A multi-centre study of the effects of direct observation of hand hygiene practices on alcohol-based handrub consumption

直接観察法の導入がアルコール消毒剤使用量に与える影響に関する多施設共同研究

Retsu Fujita, James W Arbogast, Rika Yoshida, Satoshi Hori

Infect Prev Pract. 2022 Oct 20;4(4):100256.

## <背景と目的>

WHOは、医療スタッフの手指衛生の遵守状況を評価するために、アルコール手指消毒剤（ABHR）消費量のモニタリングと手指衛生実施状況の直接観察の実施を推奨している。日本の医療施設では、ABHR使用量のモニタリングは広く実施されているが、直接観察法を導入している施設は少ない。特に、医療リソースが不足しがちな小規模施設や非急性期医療施設では顕著である。そこで

本研究では、ABHR消費量のモニタリングと直接観察法による実施状況評価の経時的効果を評価することを目的とした。

## <研究デザイン>

多施設共同前向き介入前後比較研究。観察期間中の任意の時期に直接観察法による手指衛生モニタリングを導入し、その前後のABHR消費量の変化を評価した。手指衛生の直接観察法導入前後のABHR消費量について要約統計量を算出し、ABHR消費量の差を検定した。ABHR消費量に影響を与える因子の効果を推定するため、ABHR消費量を従属変数とした一般線型混合モデル解析を行った。

## <介入方法>

参加施設の感染管理担当者に対し、研究者が、手指衛生の直接観察法とABHR消費量調査を組み合わせた手指衛生評価の方法、データ分析、フィードバック方法を説明した。直接観察法の実施に伴う観察者の負担を軽減するため、病院職員向けの教育ツール、タブレット端末で利用可能なモニタリング・データ分析ツール、フィードバック資料の雛形等のサポートツールを作成し、各施設担当者に配布、Webサイト上に掲示した。

## <結果>

17施設が本研究に参加し、すべての施設が研究開始後1か月以内にABHR消費量モニタリングを導入した。直接観察法の導入には時間を要した施設が多く、



直接観察実施に要した平均期間は24.7 (±19.1) カ月であった。直接観察実施後、すべての医療施設でABHR消費量は有意に増加した (p<0.0001)。多変量回帰分析の結果、病棟タイプ、ABHR消費量モニタリングの実施期間、手指衛生習慣の直接観察の実施期間は、ABHR消費量と独立して関連していた。

## <結論>

手指衛生のコンプライアンスを高めるために、フィードバックを伴う手指衛生実践の直接観察は、ABHR消費量モニタリングと組み合わせてより広く実施されるべきである。

表1 直接観察導入前後のアルコール消毒剤消費量の比較 (Liter / 1000 patient-days)

	直接観察導入前 アルコール消毒剤消費量 平均 (±標準偏差)	直接観察導入後 アルコール消毒剤消費量 平均 (±標準偏差)	平均値の前後差 (95%信頼区間)	p値*
大規模急性期医療施設	17.3 (±19.6)	30 (±28.3)	-12.3 (-19.9, -4.7)	0.01
小・中規模急性期医療施設	12.9 (±10)	19.2 (±19.3)	-9.5 (-16.5, -2.5)	0.02
長期・療養型医療施設	8.6 (±3.9)	9.7 (±5.2)	-5.6 (-9.5, -1.7)	0.02
全医療施設	14.0 (±14.4)	21.9 (±23.2)	-9.2 (-12.4, -5.9)	<0.0001

\* 対応のあるt検定

表2 一般化線形混合モデル解析 ABHR消費量の寄与因子

関連因子	回帰係数推定値	標準誤差	t値	P値
切片	-15.7464	15.0892	-1.04	0.3131
病棟種別 (ICU/NICU)	32.0721	0.6644	48.27	<.0001
アルコール消毒剤消費量評価導入後の経過期間 (月)	0.2094	0.0226	9.26	<.0001
直接観察導入後の経過期間 (月)	0.2119	0.03843	5.51	<.0001
手指衛生を促すためのポスターやリマインダーの設置	11.693	9.4511	1.24	0.235
手指消毒剤設置個所の拡大・改善	9.3761	6.7823	1.38	0.1867
手指衛生に関する職員教育の強化	0.4725	9.4686	0.05	0.9609
医療者の手指衛生に関する患者への情報開示	-3.6459	4.5546	-0.8	0.4359
専従感染制御職員の数	-0.1318	4.1142	-0.03	0.9749

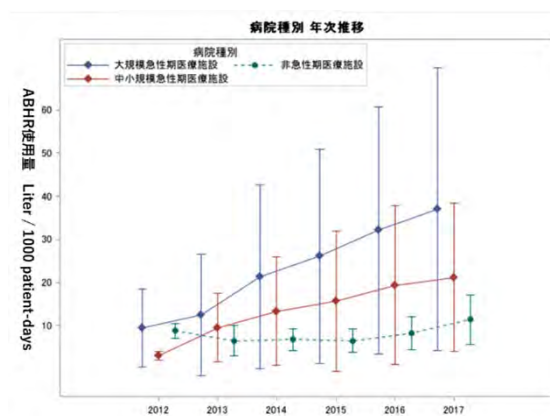


図1 アルコール消毒剤消費量の年次推移 (医療施設種類・規模別)

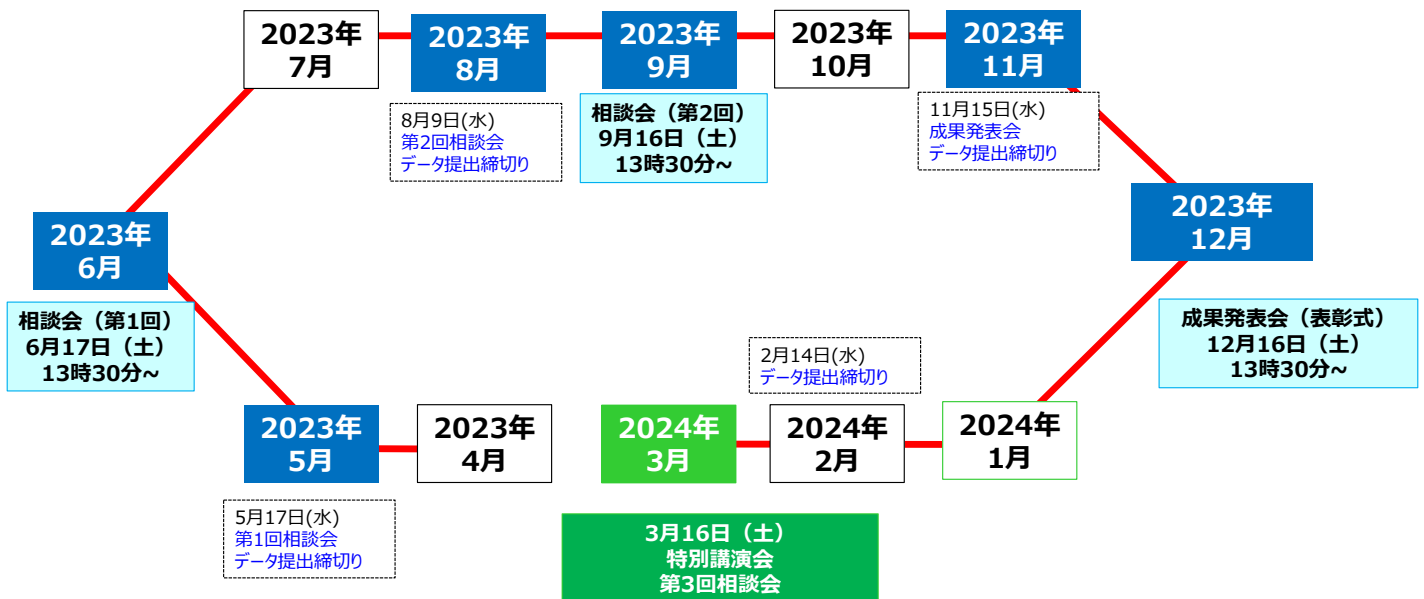
## 2023年度 第1回相談会の案内

今年度の相談会（第1回）は6月17日（土）に予定をされています。  
 データ提出は5月17日（水）までとなっています。  
 データ提出用のテンプレート（ppt）は、  
 会員サイト（<https://member-ghh.jp/>）からダウンロードをお願いします。



ご不明な点がございましたら、下記事務局まで、ご連絡を頂きたいと存じます。

## ハンドハイジーン研究会 2023年度スケジュール



### <ハンドハイジーン研究会 事務局>

〒113-0033  
 東京都文京区本郷3-35-4 不二光学ビル3階  
 (株) コンパス内 担当: 濱、大竹  
 電話 03-5840-6131 FAX 03-5840-6130 メール [info@goodhandhygiene.jp](mailto:info@goodhandhygiene.jp)

## 手指衛生アプリF-moments を改定予定です

- WHO記録フォームに忠実にする目的で、今後改修を行う予定です

主な改定点は以下です。

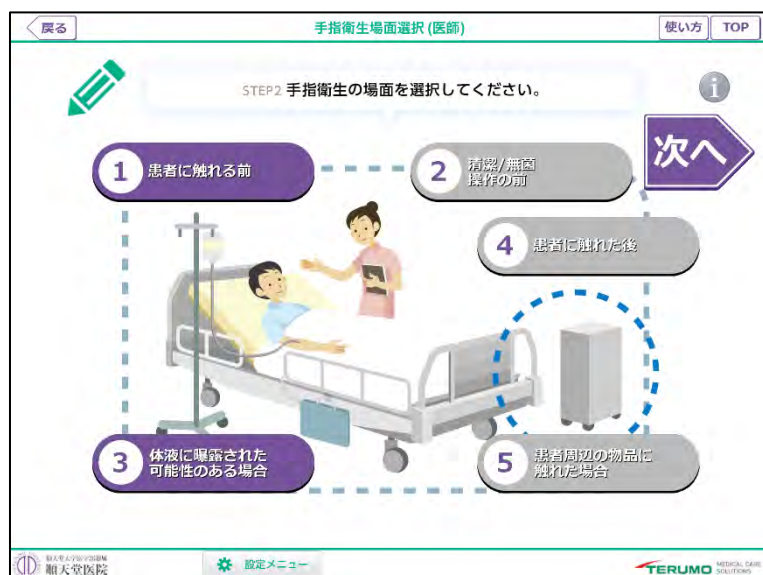
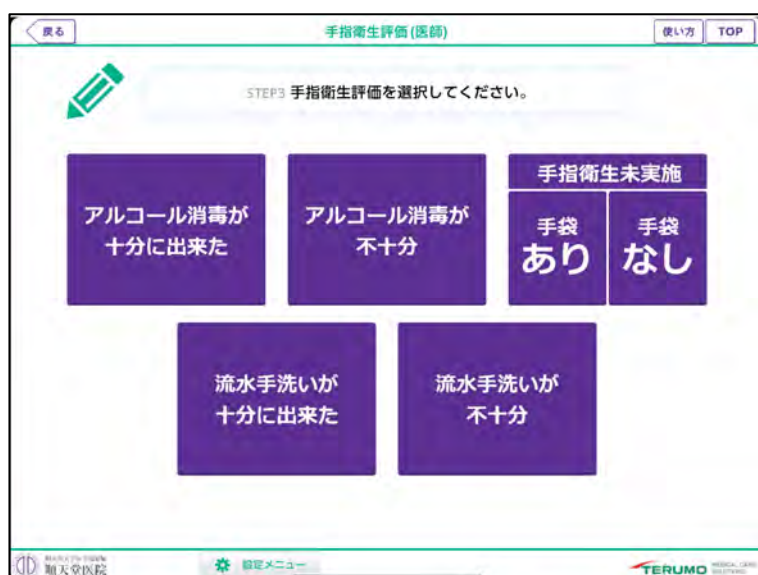
- **同時タイミングに対応**

- 最大4つのタイミングまで選択できる仕様といたします

- **手指衛生未実施時の手袋有無の選択肢を追加**

- 手指衛生未実施時の「手袋の有無」を記録できるように修正いたします

※「手袋の有無」の記録については、選択可能



会員登録はコチラから

